

米国：ISM景況指数（2016年6月）

—ドル高進行の一服により製造業の景況感が改善—

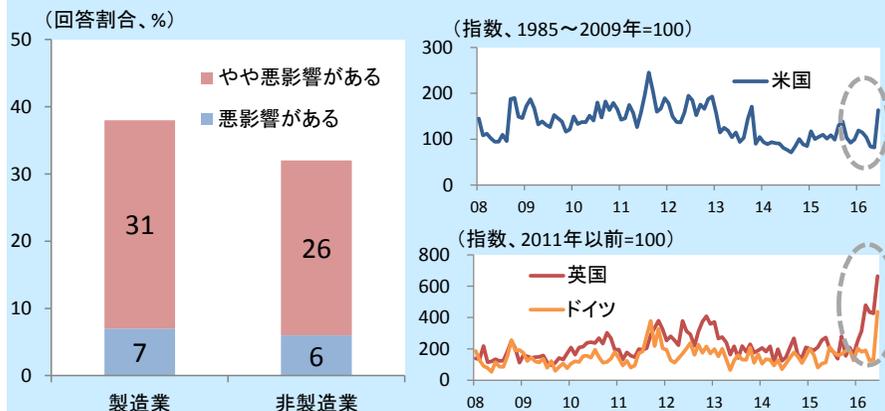
MRI Daily Economic Points

July 7, 2016

図表1 ISM総合指数



図表2 英国EU離脱の影響 図表3 経済政策不確実性指数



注:「16年末にかけて、Brexitは、あなたの企業にどのような影響があると予想しますか。」に対する回答割合
「経済政策不確実性指数」は各国主要新聞での経済政策の不確実性に関する記事を指数化したもの
資料:米国供給管理協会、Economic Policy Uncertainty

評価ポイント

今回の結果

- 6月のISM製造業景況指数(総合、7/1日公表)は、53.2と前月から上昇。ドルの実効為替レートは高水準ながらも、16年以降はややドル安方向に振れており、製造業の拡大・縮小の分岐点である50を4ヶ月連続で上回った。
- 項目別にみると、すべての項目が上昇した。在庫(48.5)の大幅な上昇が全体を押し上げたほか、雇用(50.4)が6ヶ月ぶりに50を上回った。総合指数には含まれない輸出(53.5)も4ヶ月連続で50を超えた。
- 6月のISM非製造業景況指数(総合、7/6日公表)は、56.5と前月から大幅に上昇。15年後半以降やや水準を下げたが、底堅く推移している。
- 項目別にみると、新規受注(59.9)、ビジネス活動(59.5)、雇用(52.7)などすべての項目で上昇。雇用は2ヶ月ぶりに50を上回った。業種別では、原油価格の持ち直しを背景に、鉱業が3ヶ月ぶりに50を上回った。
- 英国のEU離脱に関する追加調査(7/1公表)によれば、米国企業の約1/3が16年末にかけてBrexitの悪影響を受けると予想。悪影響の経路は、①為替(製造業51%、非製造業43%)、②世界の需要(同30%、同27%)、③英国顧客の需要(同14%、同20%)の順に懸念されている。

基調判断と今後の流れ

- 製造業の景況感は、ドル高進行の一服により持ち直している。非製造業の景況感は、15年前半に比べれば低い水準だが、原油価格の持ち直しや堅調な内需などを背景に底固く推移している。
- ただし、先行きの企業活動には注意が必要である。英国のEU離脱をめぐる国民投票(6/23)の前後頃から、欧州を中心に不確実性指数が大幅に上昇。一段のドル高進行や世界経済の減速につながれば、米国企業の景況感が後退する可能性がある。また、ここ数ヶ月の雇用市場の改善ペースの鈍化が続けば、内需が鈍り、非製造業を中心に企業活動が弱まりかねない。